OTC薬の添付文書を読み解く③

使用上の注意　「してはいけないこと」　鼻炎薬(3)

ひき続き鼻炎薬の添付文書を見ていきましょう。
No.2-1で紹介したAさんが知らずに買った鼻炎薬は、高血圧の治療を受けているAさんが使ってはいけない薬であると書きました。他にも使ってはいけない人がいます。
添付文書には次のように書かれています。

★してはいけないこと
次の人は服用しないでください
　　次の診断を受けた人:　**高血圧,心臓病,甲状腺機能障害,糖尿病**

病気は他にもいろいろあるのに、なぜこの4種類の病気に使用禁止の注意が記されているのでしょう。その答えは、Aさんが購入した鼻炎薬の主成分、プソイドエフェドリン塩酸塩という薬剤の作用に関係しています。

　プソイドエフェドリン(塩酸塩)は交感神経という大事な神経に作用する薬です。この種類の薬は大きく分けて2つの作用を持っています。　①血管収縮作用と②気管支拡張作用です。

①　の作用により、鼻粘膜の血管が収縮し、腫れが引いて鼻づまりが軽減します。
しかし、血管が収縮することによって**血圧が上昇し、心拍数が増え**ます。従って、もともと**血圧が高い人**や**心臓病の人**は病状が悪化する恐れがあるのです。また、**甲状腺機能障害**では、血圧が上昇し、心拍数が増えることで症状が一層悪化するので禁止となっているのです。さらに、交感神経に作用する薬は肝臓での糖の生成を促進する働きがあるので**糖尿病**も悪化させます。
上記の診断をうけている人がどうしても鼻炎薬を使いたい場合は、薬剤師等に相談して、違う成分の薬剤を選ぶようにしてください。

「高血圧,心臓病,甲状腺機能障害,糖尿病」は年配者の病気だから、若ければ心配はないと思うかもしれませんが、「プソイドエフェドリン含有OTC薬服用後の心筋梗塞」の症例報告として、全く健常な若者においても危険性が示されています。

　鼻炎症状はつらく、困った状態であり、症状緩和のために多くの人が鼻炎薬を使用しています。プソイドエフェドリンには、弱いながら依存性があり、リバウンド症状も見られるので、このことが鼻炎薬の長期連用を助長している可能性があるとする報告もあります。安易に薬を使わず、鼻炎の原因と治療法をもう一度見直し、薬に頼らないで症状を緩和する方法を探すことが必要かもしれません。
① の作用はプソイドエフェドリンではあまり強くないのですが、同じ仲間のエフェドリンという薬剤は、②の作用が強いので、多くのかぜ薬や咳止めに配合されています。